

事業所名 グループホームいづえ楽寿
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成21年 3月20日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 介護支援専門員
資格・経験 ホームヘルパー2級、介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士
B:現職 介護保険施設勤務
資格・経験 社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・「中国地方の子守唄」で有名な高屋町に程近く、田園に囲まれた住宅街の中にホームはある。周辺には医療機関や商業施設も多く、ホームは幹線道路から一歩中に入っているため、静かで落ち着いた環境である。ホームの窓からは、国道313号線走る車や人の往来等、日常的な暮らしの風景を間近に見ることが出来る。
- ・玄関には、鉢植えのポットが多量にあり、菜園も作られている。ホール天井の高い吹き抜けは、室内を明るくし、温める設計になっている。また、波状手すりや引き戸など、随所に住む人を大切に工夫が施されている。
- ・職員の入替わりがなく、経験豊かな有資格者を配置することで、安定した介護を入居者に提供している。独自の就業形態を作り、職員の育児・病欠・資格取得等にも柔軟に対応しており、職員の定着率の向上にも繋がっている。
- ・人との関係は、「自分を受け入れてもらえた、大切にされた」と感じる事が基本であり、プラスワンのサービスを提供することであると管理者の思いがホーム全体に浸透しており、入居者・職員も共に満足出来る暮らしの提供が行われている

特に改善の余地があると思われる点(記述)

- ・入居者の加齢に伴い、食事介助の必要な方が増え、楽しみながら同じ食事を一緒に摂ることが年々難しくなっている。少しでも美味しく食べられるようにと、イベント時は折詰め料理を取ったり、ウッドデッキに出て食事をすると、食事が楽しみなものとなるよう工夫しており、今後、状況が許せば、行事食やセレクトメニュー等を取り入れ、変化に富んだ楽しい食事の提供を工夫していかれることを期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員と入居者は互いに寄り添い、最後まで「一つの家族」として当たり前前の暮らしの継続をめざして努力している。 ・入居者・家族に、常に笑顔でいねいに対応することで、信頼して任せてもらえる関係作りを心がけている。 ・入居者の訴えには直ぐに対応することで問題を悪化させず、また、一方向からだけ見ているのではなく、相手の立場に立ち、多方面から理解するように心がけている。 ・入居者の持てる力を最大限に生かし、時間がかかっても出来ることは自分でもらい、個々の状態に合わせた介護を行うことを大切にしている。 ・管理者は職員がストレスを溜めず、安定した介護を入居者に提供し続けるため、常に職員とのコミュニケーションを図り、心身両面の把握に努めている。また、職員からの相談には、24時間いつでも対応できる体制を取っている。 ・グループホーム本来の目的である地域密着型をめざし、地域の一員として、地域の方に受け入れてもらえる関係作りを努めている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待たせることは、入居者を不安にさせ、問題行動を引き起こすことになることを過去の介護経験から学び、それを現在の介護に生かしている。入居者からコールにはすぐに対応することを職員間で周知徹底している。 ・入居者には必ず前から声を掛け、抱きしめる・手を握る等のタッチコミュニケーションを図り、落ち着いて生活してもらいように取り組んでいる。 ・協力医療機関との連携と職員の中に看護師を配置することで、入居者の健康管理と重症化を防止、少しでも現在の状態が維持できるように努めている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援		○
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	認知症の人の変容に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの過去の経験や現在の能力を把握し、出来ることには手をささず、待つ介護を心がけている。主体は入居者であり、職員の都合で行動しないことを周知徹底している。 ・裁縫や絵画、着付け等、入居者のこれまでの経験を生かせる機会を作り、個人を大切に、自尊心を尊重した支援を心がけている。 ・入居者の個人情報を他に漏らさないよう、ファイル類は事務所内のロッカーに保管し、個人情報保護に努めている。また、面会用紙は訪問毎に一枚ずつ書いてもらってファイルに綴じ、個人情報他の人の目に触れることがないように留意している。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットや事故が起こった時には、すぐにホーム内会議で検討を行うと共に報告書を作成し、職員全員で情報を共有している。常に危機感を持ち、誠意を持って対応し、事故の再発防止に向けて真摯に取り組む体制が出来ている。事故は起きてからではなく、「未然に防ぐ」ように努力していることがうかがえる。 ・苦情に対しても、入居者・家族から状況を聞き、全職員参加の会議で検討し、早急に対応するようにしている。また、必ず報告書を作成し、次へとつなげている。 ・管理者・職員は井笠地区の介護研修会や外部の様々な研修に積極的に参加している。研修内容は、ホーム内の勉強会で伝達し、職員全員で共有するようにしている。また、資格取得についても全面的にバックアップしており、ホーム全体で介護サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。 		